1945 → 2025
戦後 80 年
特 集
Vol.2

坂城でたどる戦争の記憶

～坂城から戦地へ～

前回のふるさと探訪に続き、戦後 80 年特集第２弾として、網掛の金子司さんよりご投稿いただき、伯父の金子千歳さんの戦争の記憶（記録）を辿ります。

はじめに

私は、昭和19年パラオ諸島ペリリュー島に於て戦死した故金子千歳の甥です。千歳の弟が私の父です。

今年は、戦後80年の節目の年です。農村の一青年が辿った戦争の記録を記します。

出征から戦死まで

最初に、千歳の出征から戦死までの履歴を説明します。

兵籍簿（長野県より写しの交付）、『歩兵第十五聯隊史』を基に整理しました。次の三つに区分されます。

第一区分は、昭和16年3月から昭和19年2月までの3年間、任地は満州。履歴は、昭和16年3月1日高崎（歩兵第十五聯隊に入営）、3月9日高崎出発、3月10日大阪港出発、3月16日大連上陸、3月19日鼠丘（ソキュウ）着（満州興安北省）、9月30日斉斉哈爾（チチハル）着、昭和18年9月17日黒河省納金口子着、昭和19年2月22日斉斉哈爾着。

任務は、対「ソ」国境警備、対「ソ」戦必勝のための訓練。

第二区分は、昭和19年3月から4月までの約2箇月間、任地は南方転進。履歴は、昭和19年3月10日斉斉哈爾出発、3月14日旅順着、3月28日大連港出発、3月31日門司寄港、4月3日横浜寄港、4月6日館山寄港、4月10日小笠原父島寄港、4月24日パラオ上陸。

任務は、中部太平洋方面において、米軍の進攻が着々と進み憂慮すべき戦況となり、満州斉斉哈爾から南方パラオへの転進となった。

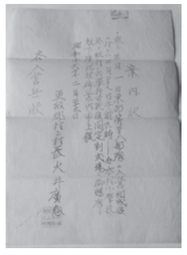
第三区分は、昭和19年4月から9月以降玉砕まで、任地はパラオ、ペリリュー島。履歴は、昭和19年4月29日パラオ諸島バベルダオブ島着、6月5日ペリリュー島着、7月2日コロール島着、8月19日バベルダオブ島瑞穂村着、9月5日コロール島着、9月18日バベルダオブ島アイミリーキ着、9月23日ペリリュー島出撃のためアイミリーキ出発。

任務は、パラオ諸島の警備。9月23日逆上陸進発後、ペリリュー島において戦闘、玉砕。

戦争関連史料

当家には、千歳に関わる戦争関連史料が数多く残っています。そのなかから一部を紹介します。

一 「壮行ノ式」の案内状


①「壮行ノ式」の案内状

写真①は、昭和16年3月1日入営に際して、村上村長から入営兵への「壮行ノ式」の案内状です。（父）歓司53歳、（母）光代52歳、千歳20歳の時のものです。翻刻は次のとおりです。

「案内状　来ル三月一日東部第三十八部隊ニ入営相成候ニ付テハ二月二十七日午前九時―分本村小學校ニ於テ壮行ノ式挙行可致候間定刻式場へ御臨席被下度此段御案内申上候

昭和十六年二月二十三日

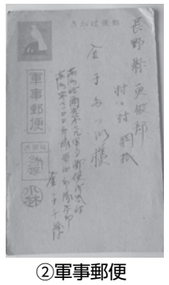
更級郡村上村長　大井廣

志　各入営兵殿」

千歳は、この「壮行ノ式」後、当日午後8時48分坂城駅発の列車に乗車し高崎へ向い、その後、一度も村上の地に戻ることなく、父、母に会うこともなく、ペリリュー島に於て戦死しました。

二 軍事郵便

千歳の最初の任地、満州から父、妹、弟へ宛てた軍事郵便が何通か残っています。


②軍事郵便

写真②は、満州より（妹）たついへの軍事郵便のアドレス面（表）です。戦地から内地（国内）への軍事郵便は無料でしたので切手が貼られていません。また「検閲済」の印が押されています。文面（裏）の翻刻の一部は、次のとおりです。

「お前も愈々今年は學校を巣立つ年だね　最後のゴール目指して奮斗して呉れ」

高等女学校卒業を控えた妹を励ましています。

書いた時期は昭和19年1月、任地は満州納金口子、任務は「ソ」満国境警備の時に書いたものです。

三 遺書

写真③は、満州からパラオ諸島への南方転進前の昭和19年3月4日に書いた「お父さんお母さん」に宛てた遺書です。翻刻は次のとおりです。

「一筆申し上げます　今度　私も愈々苛烈なる戦局に呼応して前線に出動致します　男子国難に従ってもとより生還を期せず

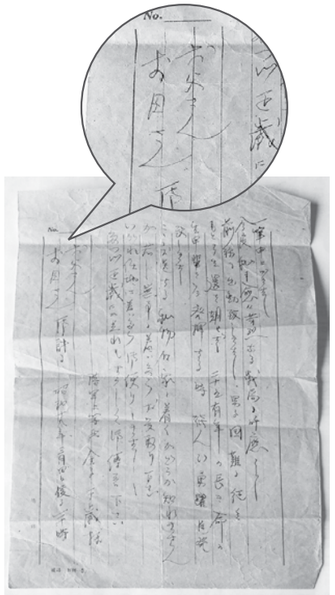
二十五有年の長き命の生甲斐を今発揮する時　嬉んで勇躍出発致します　ここにお送する私物は家に着くかどうか知れませんが　若し無事に着いたらお受取り下さい　（以下略）

陸軍上等兵　金子千歳　拝

お父さんお母さん御許に

昭和十九年三月四日　夜

る二十時」


③「お父さんお母さん」に宛てた遺書

四 遺影

写真④は、千歳の遺影です。階級が陸軍上等兵から二階級上の陸軍伍長となっています。

④遺影

おわりに

紙幅の都合で、紹介は4点のみですが、当家には、ほかにも数多くの戦争関連史料が残っています。

郷土出身将兵への慰問状下書き、近隣の方々を招いた入営祝儀帳、父への軍事郵便、故金子千歳合同葬行列帳など28点の史料と千歳の兵籍簿（所属部隊、任地、任務）、戦死年月日、戦死公報（死亡告知書）などを一冊の本にまとめました。

題名は『陸軍上等兵 金子千歳の記録』です。興味のある方は読んでいただければと思っています。

（網掛　金子　司）

ふれあい大学教養講座　戦後80年平和学習事業

『大人と子供の社会見学』

7月24日（木）、戦後80年平和学習事業として大人と子供の社会見学が開催され、小学生から高齢者まで、世代を超えた22名が参加されました。

阿智村にある満蒙開拓平和記念館を訪れ、ボランティアガイドや体験者の証言映像を見ました。

長野県、埴科・更級郡の開拓団員と義勇隊員の数、山野の開拓でなく中国人の家や土地を譲り受けたこと、敗戦時の無残な逃避行と過酷な収容所生活の実態、義勇隊へ応募を勧めた教師の苦悩などの事実を知ることができました。

見学を終え、「満蒙開拓の歴史は、被害と加害の両面があるから、容易には向き合い難いものである」との講師の言葉が印象に残りました。

（社会教育委員　池田　隆）